

## 令和元年度第2回（第10期第1回）さいたま市社会教育委員会議 会議録

- 開催日時：令和元年11月13日（水）9時30分～11時30分
- 開催場所：中央図書館 ミーティング室 B
- 出席者名：【委員】若原 幸範議長、坂口 緑副議長、石田 玲子委員、市橋 大委員、岡野 育広委員、加藤 恒委員、加藤 美幸委員、桑原 静委員、林 弘樹委員、引間 成子委員、村山 和弘委員、丹 能成委員  
【事務局】（生涯学習部）竹居 秀子  
（生涯学習振興課）樋爪 勇司、辰市 健太郎、大野 彩、曾根 啓佑、高野 未紗  
（生涯学習総合センター）中村 和哉  
（中央図書館）中島 孝一
- 欠席者名：井上 久雄委員、亙理 史子委員、河井 尚委員
- 公開・非公開の別：公開
- 傍聴人の数：なし

### 1 開会

### 2 委嘱状交付

### 3 挨拶

### 4 議長・副議長選出

学識経験者である大学の先生に議長、副議長を担っていただきたい旨、委員から提案があり、相談の結果若原委員が議長、坂口委員が副議長に就任することとなり、委員に承認された。

### 5 事務局説明

(1)さいたま市社会教育委員会議の概要について

<事務局>

（資料1を基に説明）社会教育委員会議については、社会教育法15条で「置くことができる」とあり、義務ではないがほとんどの自治体で設置されている。

自治体によっては生涯学習審議会等を、社会教育委員と別に設置していることもあるが、本市では広く社会教育・生涯学習を審議する組織は社会教育委員会議だけである。

委員の委嘱については社会教育委員設置条例第2条に基準が定められており、内

容は文部科学省令で定める基準に公募委員を加えたものとなっている。

第10期会議での審議内容について、第9期会議の答申をベースに事務局で生涯学習推進ビジョンを作ってまいりたい、その過程での事務局案について、委員の皆さまからご意見をいただきたい、と考えている。

併せて、同ビジョンを市民に広く周知する方法、例えばシンポジウムの開催やガイドブックの作成など、についても御意見をいただきたい。

また、同ビジョンの事務局案に対していただいた様々なご意見を、教育委員会へのご提案としてまとめていくことも考えられる。

ここで、第9期においては第3次生涯学習推進計画と称していたが、今回初めて生涯学習推進ビジョンという言葉を使わせていただいた。

今回私達は、行政のための計画、計画のための計画ではなく、より市民にとって分かりやすいものを目指すことから、ビジョンとしたものである。ビジョンの詳細については次回の会議で改めて詳しくご説明をしたい。

## (2)第2次さいたま市生涯学習推進計画について

### <事務局>

(資料2、第2次計画を基に説明) そもそも本計画は、多岐にわたる本市の生涯学習に関する施策を総合的・計画的に推進するための指針である。

本計画の基本方針として「学べる・活かせる・つながる」を掲げており、目指すべき地域社会の姿を「すべての人が『学べる』社会」、「学習成果を『活かせる』社会」、「学習を通じて『つながる』社会」と提示している。

また本計画においては、基本方針ごとに目標及び基準となる数値を設定している他、それぞれ方向性を設定しており、その下に基本施策、関連事業が続いている。

関連事業については、教育委員会の事業と市長部局の事業とがおよそ半々となっている。

### <委員>

今回のビジョンと次期総合振興計画とは整合を図るのか。

### <事務局>

次期総合振興計画については、現在市で策定作業を進めている。

同計画には市全体に係る部分と、個別の分野に係る部分があり、個別の分野のうち教育分野に係る部分と整合するものとして、教育委員会では昨年度「第2期さいたま市教育振興基本計画」を策定したところである。

今回私達が策定しようとする生涯学習推進ビジョンは、この基本計画に結び付けられるものであり、内容や計画期間について整合を図っていくものである。

<委員>

第2次計画の目標と基準となる数値を紹介していただいたが、目標に対する実績はどうなっているか。

<事務局>

昨年度生涯学習に関する市民意識調査を実施しており、数値等については第9期の答申に盛り込まれているため、この後改めて説明する。

<委員>

社会教育委員会では、ビジョンについて意見聴取を行うのか、あるいはビジョンを作り上げていくのか。どこまで審議し、ビジョンに関わるのか知りたい。

第2次計画の進行管理についても、どこまでこの会議で行うのか確認したい。

<事務局>

ビジョンの策定にあたっては、別途庁内で会議を設ける予定である。

社会教育委員会では、事務局が作成したビジョンの素案や骨子についてご意見をいただければと考えている。いただいたご意見を庁内会議で再度検討し、修正したものを改めて社会教育委員会報告する、といったやり取りを行いながら、最終的にビジョンとして策定出来ればと考えている。

<委員>

会議の役割はできる限りシンプルにした方がよい。

さいたま市は規模が大きいので、会議の持つ役割が複雑になりやすく、どこが責任をもって取り組むのかが見えにくくなってしまうため、それぞれの役割を明確にして欲しい。

<副議長>

ビジョンの骨子作りを年4回の会議で行うのは難しいと思うが、具体的な事業については各委員の専門分野から意見を出せるものも多いと思う。

骨子等に意見を出す場合でも、その意見は事業に落とし込まれていくものでもあると思うので、事業について意見を出していく方がいいのではないかと。

<事務局>

次回の会議で、教育委員会の会議と社会教育委員会がどのような関係にあるのかなどについて詳しく説明したい。

今までの計画は、市長部局と教育委員会の生涯学習に関する事業を「学べる」「活かせる」「つながる」にカテゴリライズして、その進捗管理を行うものであり、生涯学習推進の目指すべき姿がなかった。

今回のビジョンは、人生100年時代を迎えるに当たって、さいたま市が生涯学習とはこうあるべきものである、という大きな括りを決め、各事業がより良いものになるよう、他の部署へアドバイスができるようなものにしていきたい。

そのためにも、行政だけでなく市民も達成を目指せるようなビジョンを作りたいと思っているので、それも含めてイメージを次回示したいと思う。

今回の会議では、第2次計画の内容とその検証評価の状況について知っていただき、次回の会議で、ビジョンを皆様と一緒に構築していくことについて協議したい。

<委員>

ビジョンに関する社会教育委員の役割については、次回改めて確認をしたい。

(3)第9期さいたま市社会教育委員会議の答申について

<事務局>

(答申書及び資料3を基に説明)

第2次計画の検証・評価について、平成30年度に実施した関連事業調査と市民意識調査の結果から、第2次計画は順調に推移している。

一方今後の課題として、生涯学習を行っている人を増やすため、行政には生涯学習の環境整備だけでなく、市民のやる気を引き出すような「学びのきっかけづくり」や「学びのプロセスの中で仲間同士がつながることができる仕組みづくり」などを仕掛けていくことが求められている。

次期計画における基本方針について、「学べる・活かせる・つながる」から『学び』と『活動』の循環へ、というテーマのもと、「いつでも、どこでも、何度でも学べる環境づくり」「学習意欲を引き出す学びのきっかけづくり」「『学び』と『活動』が循環する環境づくり」の3つを掲げた。

その中で、学習活動においては、市民の学習ニーズに応える行政の仕掛けが求められる他、学習相談機能やコーディネート機能など「学習機会の選択援助機能」の拡充や見直しを行うこと、また子どもの頃から自発的な学習習慣を身につけたり社会教育施設を利用したりすることが重要である。

さらに、「学び」と「活動」が循環することで、学習者同士の助け合いや相互学習によって学習がさらに深まるとともに、こうした市民相互のつながりや仲間意識が、いきいきとした地域コミュニティを形成し、地域に対する愛着や誇り、帰属意識がはぐくまれるなど、地域の発展に資する効果も見込まれる。

こうした生涯学習推進に向けた体制として、教育委員会と市長部局や大学、NPO法人、企業や団体などの多様な主体との緩やかなネットワークの構成と、市民の学びをコーディネートする人材が必要である。

<事務局補足>

関連事業調査というのは自己評価であり、市民意識調査は外からの評価であるが、自己評価が甘すぎる。また自己評価の基準が、何人達成しているとか何回イベントをすればいいとか、自分たちの事業を展開することで満足してしまっているか

ら、市民意識調査の方はこれだけ低いのではないか。

イベントのクオリティや、イベントが市民の生活や行動にどのように結び付いて変化させるのか、そのアウトカムが足りない。

今回市民意識調査をしたときに、生涯学習について、市民の中にも温度差があるということも分かった。

生涯学習は日常生活の中で経験するものも多く、既に地域のために知識や経験を活かしているにも関わらず、それに気づいていない、そうした意識がない市民が多くいるのではないか。

今後私たちが作るビジョンの中で、市民と行政が生涯学習と言うものを共有することで、行政側の生涯学習施策と市民のニーズ、社会情勢がマッチングできるのではないかと思っている。

<委員>

私自身も民間や公民館の事業を通して生涯学習に携わり、仕事に活かしている。子どもの頃から公民館等を利用するなどのきっかけがあったからだと思う。

第9期の会議は机上のものであり、実際に活かしていくにはまだまだ課題があると思う。

第2次計画には難しい話が並んでいて、私が知りたい情報が得られないし、知りたい情報を検索してすぐに出てくるようなシステムが今はないので、そうした仕組みづくりが必要だと思った。

<委員>

冒頭「忌憚のないご意見を」という言葉があったが、あれはただの挨拶ではなく、本当に忌憚のない意見を求めてくれている。第9期では、我々もそのように意見を言ってきた。

先ほども、評価が身内に甘すぎるといった発言があったが、それは第9期の会議の中から出てきた意見でもあったと思う。

今度のビジョンは、事務局が答申を基に作っていくと思うが、今回の答申には具体的な事はあまり書いていないものの、会議の過程の中で委員から出てきた、生涯学習の現場でのいろいろな成果や課題が詰まっている。

こうした背景が活かしているから、推進計画という行政の立場に立った計画を、市民に向けたビジョンに変えていくということかと思う。私たちが会議の中で発言してきたことが事務局に響いたことの一つかなと嬉しく思った。

<委員>

9期で意見が集中したポイントは2つあって、1つ目は第2次計画の「つなが

る」のポイントが低いのでどうすればいいかということ、2つ目は多様性についてだった。

「つながる」については、結局つながらないと学びが継続されず、深まらない。つながることでより学んだり活かしたりできる機会が増えていくので、その意識付けをどうするかという議論が多かった。

多様性については、議論の内容がどうしても本市の生涯学習、つまり公民館やコミュニティセンター、学校での学びになりやすかった。民間企業や地域、大学との連携をどう作って、市民が全ての情報を手に入れられるような環境づくりをどうしていくか、という議論が多かった。

## 6 報告事項

11月7日～8日に開催された関東甲信越静社会教育研究大会埼玉大会について、事務局から報告。

閉会

以上